



「ちょっといい人に、ちょっとだけえらい人に」

校長 橋本 滋

梅雨の晴れ間、プールサイドから子どもたちの元気で楽しいような声が聞かれます。この梅雨の時期、健康管理に気を付けながら、1学期のまとめと充実した夏休みが過ごせるようにしてほしいと思います。

さて6月を振り返ってみますと、携帯インターネット安全教室（6年生）、町たんけん（2年生）、浦和区Bブロックバスケットボール大会（6年1組出場）、防犯教室などの行事・体験活動が多くありました。また今月初めには、育成会の皆様方のお力添えによる「七夕の飾りつけ」などもあります。これらの行事や体験活動一つ一つが子どもたちにとって有意義で大切な経験となります。

話は変わりますが、先日、自分がちょっといい人になったような、ちょっとだけえらい人になったような、そんな経験をしました。それは本当に些細なことであり、傍から見れば、「当たり前のこと」、「なんだ、そんなこと」と思われるようなことですが、自分にとって新たな一歩が踏み出せたそんな出来事でしたので、敢えてご紹介したいと思います。

それは、日帰りで温泉地に行った時のことです。目的地に着くと、近くに有名な史跡があるというので、まずそこを見学することにしました。ロビーでツアーバスを待つ間、何気なく近くのテーブルを見ますと、そこに、パンフレットや優待券などが散らばっていました。「なんだ、だらしない。店の人誰も片付けないんだなあ。」そうは思いましたが、バスが来たので出口へと向かい、もうそのことは忘れていました。そして見学を終え、温泉に入るためにロビーを横切ろうとした時、中年の女性客数名の声が聞こえてきました。「ここ散らかっているね。きたないね。」先ほどのテーブルのことです。そして、散らかっているパンフレット類をきれいに揃えていました。「えらい人もいるもんだな。」「でも自分は、そこまではしないな。」そんなことを思ながら、そのまま風呂場へと向かいました。

いくつかの湯船に浸かり、さて体を洗おうかと洗い場に行くと、その前は一面泡だらけでした。その場所を使うのは気持ち悪かったので慌てて立ちあがり、隣の洗い場にしました。そしてちょっと「ムッ」とした気分になりました。それはいつも自分が、使った所をシャワーで流し、桶は逆さにして椅子の上に置いて出るようにしているからです。今回ももちろんそれをしましたが、その日違ったのは、自分が使ったのではない隣の泡だらけの洗い場も同じようにきれいにしたことです。そうさせたのは、先ほどの女性客の行動を見たからかもしれません。でも、自分が汚したのではないその泡を流している間、自分がちょっといい人になったような、ちょっとだけ、えらい人になったようなそんな気がしました。たったこれだけのことですが、自分にとっては今までの自分を超えたようなそんな出来事でした。そして、その気にさえなれば、誰でも「ちょっといい人、ちょっとだけえらい人になったような、そんな気分になれるのだなあ」と思いました。これから先もこのようなことがずっとできるかといえばそれには疑問がありますが、自分が気づいた時は、それを無視できない自分が生まれたことは確かです。

今月下旬からは子どもたちが楽しみにしている夏休みが始まります。この夏休みに、観光地に出かけたり、いろいろなイベント会場に出かけたりすることがあるかもしれません。そのような時に、「ちょっといい人」「ちょっとだけえらい人になる」そんな気分を味わうそんな機会があるかもしれません。また、これに加え、夏休みでなければできない学習や体験（地域の行事への参加なども含め）をして、一回り成長した元気な姿を始業式に見せてほしいと思います。病気になったり、怪我をしたりしないで、楽しい夏休みしてほしいと思います。



